

澤田英史 略年譜

一九八〇年（昭和五十五年） 兵庫県立加古川北高校に転任。

長男・圭誕生。

一九五〇年（昭和二十五年） 十月十一日 東京生まれ。生後間もなく

一九八五年（昭和六十年） 兵庫県立長田高校に転任。又江啓恵氏との

兵庫県生野町へ移る。

交流から現代短歌の面白みを知る。

一九六九年（昭和四十四年） 兵庫県立生野高校卒業。

一九八八年（昭和六十三年） 神戸大学大学院教育学研究科に内地留学。

現代詩や小説等文学に興味を持ち始める。

国語教育学を専攻する。研究室仲間と連句

一九七〇年（昭和四十五年） 京都大学文学部入学。ヌーヴォーロマン

作りなどに興じる。俳号は「江石」。

に憧れ、小説や詩の同人誌を作る。

一九八九年（平成元年） 大学時代の親友の交通事故死を悼んで作っ

一九七五年（昭和五十年） 松岡ひろし名義で「野わき峠」「シヌトキ

た歌が「朝日歌壇」で馬場あき子選に採ら

クレバ片手ヲアゲル男ノウタ」を作詞、

れたことを機に作歌活動を始める。

武者小路千達氏の作曲・歌唱でベル・エ

一九九〇年（平成二年） 神戸大学大学院を修了。教壇に復帰。

ポック社よりレコード発売。

一九九一年（平成三年） 山桃忌奉賛第六回短歌祭に応募した作品が

大学を卒業し、兵庫県立加古川西高校に

神戸新聞社賞を受賞。授賞式でポトナム短

赴任。

歌会の上野晴夫氏と出会う。

一九七八年（昭和五十二年） 檀上真理子と結婚。

一九九二年（平成四年） ポトナム短歌会に入会。上野氏の指導を受

一九七九年（昭和五十四年） 長女・芙貴子誕生。

ける。

一九九五年（平成七年）

「方向指示灯」^{グリーンライト}三十首でポトナム結社賞の

白楊賞を受賞。

一九九六年（平成八年）

兵庫県立芦屋高校に転任。

一九九七年（平成九年）

「異客」^{いかく}五十首で第四十三回角川短歌賞を受賞。

一九九八年（平成十年）

兵庫勤労市民センター「短歌入門」講座開始。

一九九九年（平成十一年）

第一歌集「異客」^{いかく}を柘書房より刊行。同書で平成十一年度現代歌人集会賞を受賞。

二〇〇〇年（平成十二年）

ポトナムの編集委員、選者となる。現代歌人集会、現代歌人協会に入会。

二〇〇一年（平成十三年）

生田神社曲水の宴に参加。

二〇〇三年（平成十五年）

読売新聞神戸版「兵庫よみうり文芸」短歌欄選者となる。

二〇〇四年（平成十六年）

第二歌集「沢田英史集」を邑書林より刊行。

長女芙貴子結婚。

二〇〇六年（平成十八年）

孫・山口ひなた誕生。「陽のあたる明るい道を

歩むやう やさしかれとぞひなたと名付く」

の歌を贈る。

二〇〇七年（平成十九年）

第三歌集「さんさしおん」を角川書店より

刊行。

二〇〇八年（平成二十年）

孫・山口楓誕生。「しげりたつ楓のごとくとほしろく いろあざやげるひと生をいきよ」の歌を贈る。

二〇〇九年（平成二十一年）

県立芦屋高校を退職。

二〇一〇年（平成二十二年）

テレビテキスト「NHK短歌」8月号に「自選五十首」掲載。

二〇一二年（平成二十四年）

故郷の生野町奥銀谷に歌碑建立。「あがさとは はるははなさき 夏しげり あきはもみぢに 冬はゆきつむ」

二〇一五年（平成二十七年）

九月十三日逝去。法名「英峰院釋史教」。生野町の浄願寺に眠る。

（作成協力：澤田真理子氏・山口芙貴子氏）

（竹内 隆 作成）